２　区割り・区の名称

目　次

１　区割り･区の名称　……区割-2
　１－１　４区案選定の経緯及びその区数･区割りの特徴
　１－２　特別区の名称案
　１－３　区割り･区の名称

２　町の名称　……区割-7

参考資料 ……区割-10

１　区割り・区の名称

※委員からの提出項目

1－1　4区案選定の経緯及びその区数・区割りの特徴

◆区割り選定の経緯

　大阪維新の会において、法定協議会内での議論に加え、党内での意見交換会や大阪市内選出議員会議を重ね、副首都・大阪にふさわしい特別区の区割りとはどうあるべきかの議論を積み重ねてきたところ。党所属の大阪市内選出議員（大阪市会議員・大阪府議会議員・国会議員）全員から、区数・区割りに関する意見を聴取し、最適な区数・区割り案の選定を行ってきた。
　併せて、党HP内の大阪都構想特設ページにおいて、広く意見を募り、議員内でもこれらの意見を共有するとともに、世論調査の実施、市長による区長会や市役所及び府庁職員への意見聴取も踏まえ、総合的に判断を行った。

◆4区案の考え方及びその特徴

　各特別区における人口や財政の均衡化を図り、過去の合区・分区の歴史的な経緯も踏まえ、地域において築いてきたコミュニティを考慮して策定した。その特徴は、特別区間の人口や財政の格差が生じにくく、財政シミュレーション上も安定している点にある。スケールメリット生かすことで大きな財政基盤を持ち、広域行政を大阪府に一元化するとともに、基礎行政は現在の大阪市と同等の事務を担うことが十分に可能であり、住民サービスの維持・向上させていく上で最適であると認識している。また、各区に経済や交通の拠点（ターミナル）が存在しており、各区の発展・成長の余地も大きく、個性ある独自のまちづくり、子育て・教育環境、福祉の充実等が期待できる。さらに、再編に伴う庁舎の確保や職員数の増加等に伴うコスト増も抑えることが出来る。
　また、前回の住民投票（2020）と同じ4区案との指摘があるが、前回の4区案も法定協議会において、各党各会派の議員間での議論を重ねて決定されたものであり、今回の区割りは、その案から、更に市民の声や地域特性に配慮して、3つの行政区（港区、住吉区、東成区）の区割りを変更している。

1－2 特別区の名称案

◆基本的な考え方

特別区の名称案については、
①特別区は現行政区の区域を越えて形成されることから、より包括的なものとする
②住民に親しみやすく、わかりやすいものとなるよう、極力簡潔なものとする
③出来る限り多くの市民の声を聞き取り、名称の選定を進める

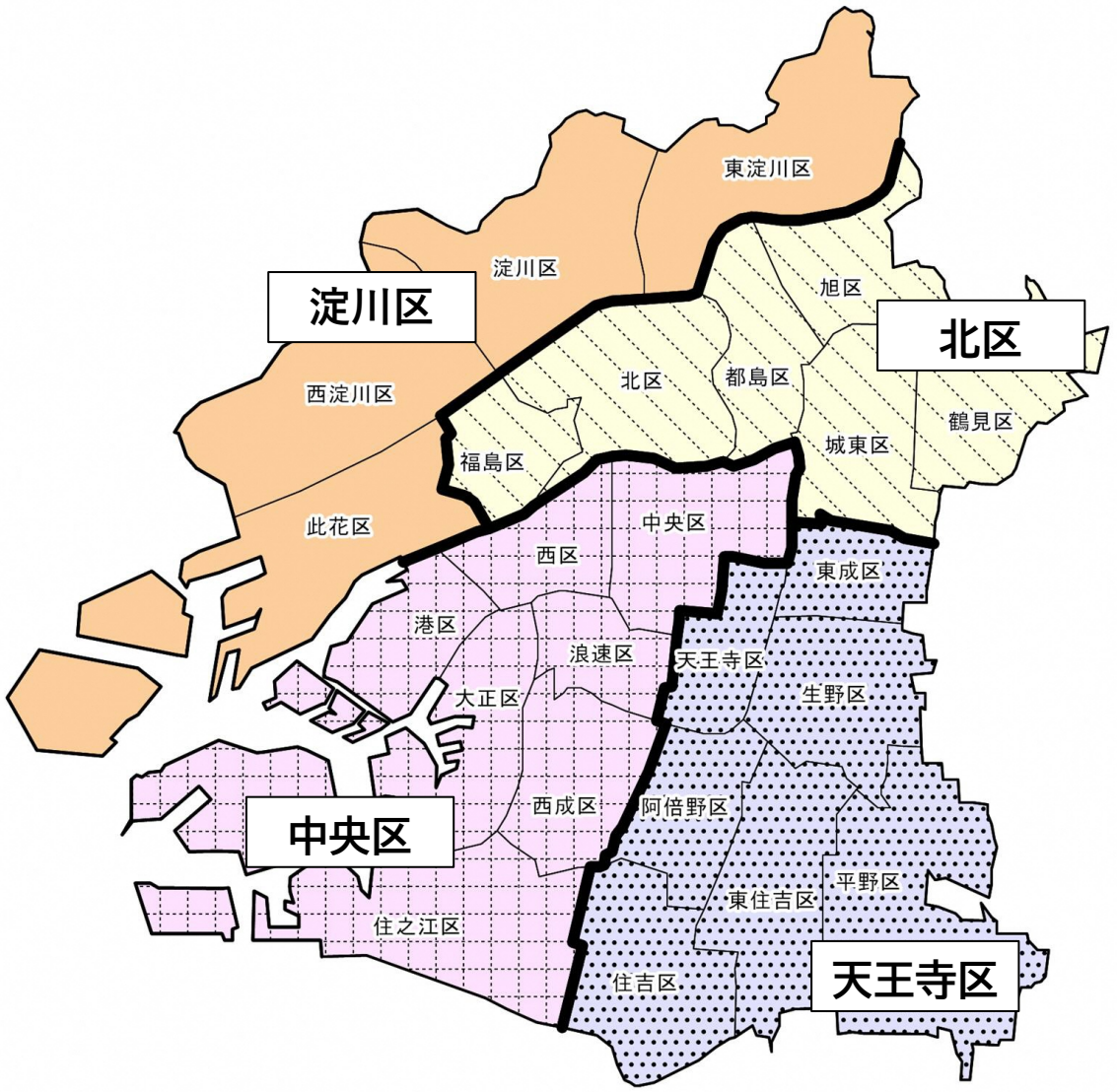
◆特別区の名称選定の経緯

大阪維新の会において、法定協議会内での議論に加え、大阪市内選出議員を中心に所属議員間で特別区にふさわしい名称とはどうあるべきかの議論を積み重ねてきました。

併せて、党HP内の大阪都構想特設ページにおいて、3度にわたり市民アンケートを実施して広く市民の考えを聞き取るとともに、所属議員による街頭アンケートや市民を対象とした世論調査も実施し、区名案の募集から候補の絞り込みまで進めてきました。

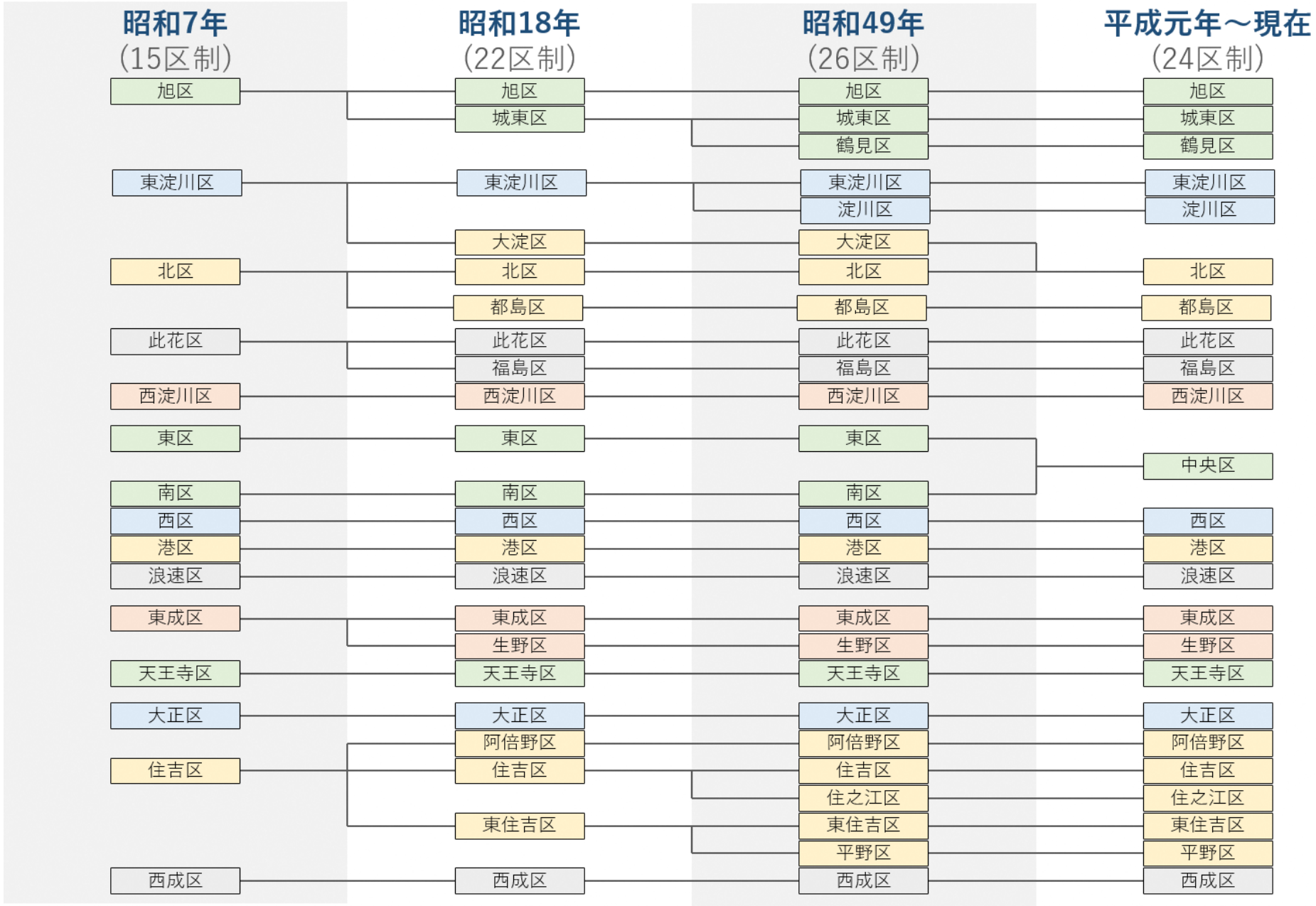
最終選定にあたっては、基本的な考え方、4区の名称の統一感、市民アンケート等の結果を踏まえ、とりわけ各特別区の区域に住む市民の意向を重視して、本党所属の各特別区選出議員会議において、名称案を次の通り決定しました。

1－3　区割り・区の名称



区の名称	現行政区
淀川区	此花区、西淀川区、淀川区、東淀川区
北区	北区、都島区、福島区、旭区、城東区、鶴見区
中央区	中央区、西区、港区、大正区、浪速区、住之江区、西成区
天王寺区	天王寺区、東成区、生野区、阿倍野区、住吉区、東住吉区、平野区

（参考） 大阪市の区の変遷


昭和7年
(15区制)
旭区
東淀川区
北区
此花区
西淀川区
東区
南区
西区
港区
浪速区
東成区
天王寺区
大正区
住吉区
西成区
昭和18年
(22区制)
旭区
城東区
東淀川区
大淀区
北区
都島区
此花区
福島区
西淀川区
東区
南区
西区
港区
浪速区
東成区
生野区
天王寺区
大正区
阿倍野区
住吉区
東住吉区
西成区
昭和49年
(26区制)
旭区
城東区
鶴見区
東淀川区
淀川区
大淀区
北区
都島区
此花区
福島区
西淀川区
東区
南区
西区
港区
浪速区
東成区
生野区
天王寺区
大正区
阿倍野区
住吉区
住之江区
東住吉区
平野区
西成区
平成元年～現在
(24区制)
旭区
城東区
鶴見区
東淀川区
淀川区
北区
都島区
此花区
福島区
西淀川区
中央区
西区
港区
浪速区
東成区
生野区
天王寺区
大正区
阿倍野区
住吉区
住之江区
東住吉区
平野区
西成区

２　町の名称

2 町の名称

【町の名称の取扱い】
　町の名称の取扱いについては、地域の歴史などを考慮し、**特別区の設置の日の前日までの間に**住民の意見を踏まえて**大阪市長が定める**ものとする

■基本方針

　現在の行政区の名称は、地域の歴史などを踏まえ、長年使用されてきたものであり、住民にとって愛着があるものであることから、その取扱いには十分に配慮する

歴史、住民の愛着 → 一定のルールに基づいて、町名に反映

■ 取扱ルール（案）

原則　新たに設置する特別区の名称と現在の町名の間に、現在の行政区名を挿入

	市区名	行政区名	町名	街区符号	住居番号
変更前	大阪市	□□区	○○町×丁目	×番	×号
変更後	**△△区**	**－**	**□□○○町×丁目**	**×番**	**×号**

例外　次の場合は、現在の行政区名を挿入しない

（例外1）① 特別区名と同一となる現在の淀川区・北区・中央区・天王寺区
② 方位と混同されやすい西区

現在の町名	取扱ルール（案）の原則では	例外適用後の町名
① 北区　池田町	・北区　北池田町	・北区　池田町
② 西区　九条	・中央区　西九条	・中央区　九条

（例外2）③ 行政区名と同じ漢字表記が連続する場合

現在の町名	取扱ルール（案）の原則では	例外適用後の町名
③ 都島区　都島本通	・北区　都島都島本通	・北区　都島本通
住之江区　住之江	・中央区　住之江住之江	・中央区　住之江

（参考） 取扱ルール（案）の適用例

特別区	現在の行政区	原則によるもの（現在 → 原則）	例外のもの（現在 → 原則 → 例外）
淀川区	此花区	此花区 西九条 → 淀川区 **此花**西九条	―
	西淀川区	西淀川区 姫島 → 淀川区 **西淀川**姫島	―
	淀川区	―	淀川区 十三東 → 淀川区 淀川十三東 → 淀川区 十三東（現淀川区の町名は全て同様）
	東淀川区	東淀川区 菅原 → 淀川区 **東淀川**菅原	―
北区	北区	―	北区 中之島 → 北区 北中之島 → 北区 中之島（現北区の町名は全て同様）
	都島区	都島区 網島町 → 北区 **都島**網島町	都島区 都島本通 → 北区 都島都島本通 → 北区 都島本通（ほか3町名）
	福島区	福島区 野田 → 北区 **福島**野田	福島区 福島 → 北区 福島福島 → 北区 福島
	旭区	旭区 森小路 → 北区 **旭**森小路	―
	城東区	城東区 蒲生 → 北区 **城東**蒲生	―
	鶴見区	鶴見区 横堤 → 北区 **鶴見**横堤	鶴見区 鶴見 → 北区 鶴見鶴見 → 北区 鶴見
中央区	中央区	―	中央区 本町 → 中央区 中央本町 → 中央区 本町（現中央区の町名は全て同様）
	西区	―	西区 九条 → 中央区 西九条 → 中央区 九条（現西区の町名は全て同様）
	港区	港区 市岡 → 中央区 **港**市岡	港区 港晴 → 中央区 港港晴 → 中央区 港晴
	大正区	大正区 泉尾 → 中央区 **大正**泉尾	―
	浪速区	浪速区 恵美須東 → 中央区 **浪速**恵美須東	浪速区 浪速東 → 中央区 浪速浪速東 → 中央区 浪速東（ほか1町名）
	住之江区	住之江区 南港北 → 中央区 **住之江**南港北	住之江区 住之江 → 中央区 住之江住之江 → 中央区 住之江
	西成区	西成区 天下茶屋 → 中央区 **西成**天下茶屋	―
天王寺区	天王寺区	―	天王寺区 上本町 → 天王寺区 天王寺上本町 → 天王寺区 上本町（現天王寺区の町名は全て同様）
	東成区	東成区 深江北 → 天王寺区 **東成**深江北	―
	生野区	生野区 桃谷 → 天王寺区 **生野**桃谷	生野区 生野東 → 天王寺区 生野生野東 → 天王寺区 生野東（ほか1町名）
	阿倍野区	阿倍野区 昭和町 → 天王寺区 **阿倍野**昭和町	阿倍野区 阿倍野筋 → 天王寺区 阿倍野阿倍野筋 → 天王寺区 阿倍野筋（ほか1町名）
	住吉区	住吉区 長居 → 天王寺区 **住吉**長居	住吉区 住吉 → 天王寺区 住吉住吉 → 天王寺区 住吉
	東住吉区	東住吉区 駒川 → 天王寺区 **東住吉**駒川	―
	平野区	平野区 喜連 → 天王寺区 **平野**喜連	平野区 平野本町→ 天王寺区 平野平野本町 → 天王寺区 平野本町（ほか9町名）

※令和8年10月時点　大阪市ホームページ 24区の町名一覧をもとに作成

参考資料

資料名	ページ
（参考） 基礎データ	区割-11

（参考） 基礎データ

特別区名	現在の行政区名	面積【㎢】	総人口（令和7年10月1日現在）【人】	令和32年将来推計人口【人】	純付加価値額【百万円】
淀川区	此花区	19.30	62,184	56,831	174,519
	西淀川区	14.21	97,021	80,932	403,468
	淀川区	12.64	189,980	172,288	1,099,250
	東淀川区	13.27	177,869	150,596	519,739
	計	59.42	527,054	460,647	2,196,976
北区	北区	10.34	149,465	151,919	5,116,529
	都島区	6.08	110,025	102,198	319,181
	福島区	4.67	84,205	86,178	313,199
	旭区	6.32	90,667	75,471	142,570
	城東区	8.38	169,370	157,480	236,407
	鶴見区	8.17	109,817	101,797	170,454
	計	43.96	713,549	675,043	6,298,340
中央区	中央区	8.87	119,162	113,063	5,917,572
	西区	5.21	115,345	117,219	1,369,779
	港区	7.86	80,676	68,567	215,908
	大正区	9.43	60,041	38,958	114,121
	浪速区	4.39	87,346	75,480	598,669
	住之江区	20.68	115,052	85,058	288,389
	西成区	7.37	105,242	67,565	133,589
	計	63.81	682,864	565,910	8,638,027
天王寺区	天王寺区	4.84	87,701	87,094	394,451
	東成区	4.54	89,322	77,833	211,771
	生野区	8.37	128,396	95,212	199,296
	阿倍野区	5.98	112,313	101,564	224,045
	住吉区	9.40	150,253	123,193	134,619
	東住吉区	9.75	131,439	104,546	160,193
	平野区	15.28	182,480	139,143	225,377
	計	58.16	881,904	728,585	1,549,752

出典：（面積、総人口）総務省「令和7年国勢調査（人口等基本集計）」、
（将来推計人口）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」、
（純付加価値額）総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」